

簡易施設を用いたクロモジ挿し木増殖方法

福島県林業研究センター 森林環境部

部門名 林業—緑化—増殖・繁殖

担当者 大高千怜

I 新技術の解説

1 要旨

本県では、多積雪地域の南会津地域を主として精油や薬用酒の原材料となるクロモジの採取が行われているが、クロモジの採取方法は山取であり、資源の枯渇が懸念されている。クロモジの安定供給には、より簡易な挿し木の手法が必要である。よって、従来法であるビニールハウスやガラス温室の中でさらに密閉して挿し木の養生を行う方法と比較して、多積雪地域でも設置や撤去が容易な露地に設置したトンネル施設（以下、トンネル）を用いる方法を検討した。トンネルを用いた結果、従来法と同等もしくはそれ以上の発根率（約70%）が得られた（図1）。ただし、7月下旬については、いずれの方法も発根したとしても発根量が少ないため、時期としては遅いと考えられる。

- 挿し木は6月下旬と7月下旬に当年枝を用いる緑枝挿しを行った。当年枝は勢いが良いものを選び、運搬時の水分保持と当年枝を複数とるために、枝を長くとった。
- 挿し穂を調整し（図2）、1時間の吸水の後、発根促進剤処理を20～24時間行い、鹿沼土（細粒）を育苗箱に充てんした挿し床に切り口を傷つけないように挿し木した。
- 挿し床の養生に用いたトンネルは単管パイプと支柱を用いた二重構造であり、片側を開閉可能にした（図3、図4）。従来法としてミスト付きハウス内に設置したパイプフレームにビニールをかけた小ハウス（以下、ハウス）を養生施設として比較した。

2 期待される効果

- 6月下旬の挿し木実施で簡易なトンネルでもハウスと同等の発根率が得られる。
- 特別な施設（設置が困難、高価など）を用いないため、一般生産者が取り組みやすい。

3 適用範囲

- 県内クロモジ生産者

4 普及上の留意点

- 発根期間の7～9月は一般的な挿し木苗育成の適温（25℃）の±10℃の幅に保つ。
- 湿度は90%以上に保ち、気温が低くなる秋口も乾燥に注意し十分に散水すること。

II 具体的データ等

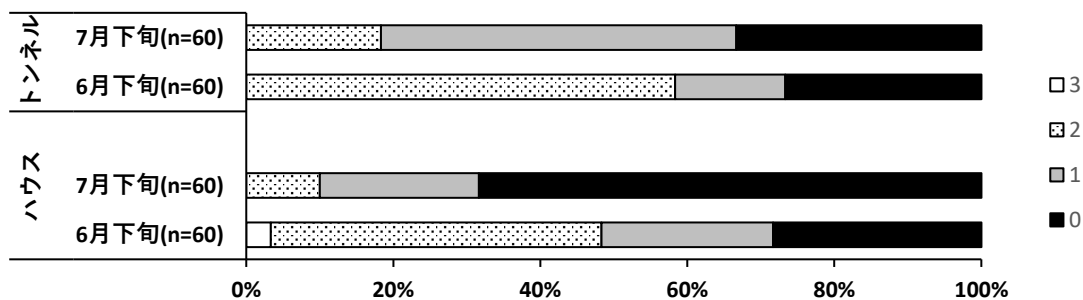


図1. 異なる養生施設別の発根指数 (0:なし、1:太根1本、2:太根2~3本、3:太根4本以上)
 ※発根率は発根指数1~3を合算した割合

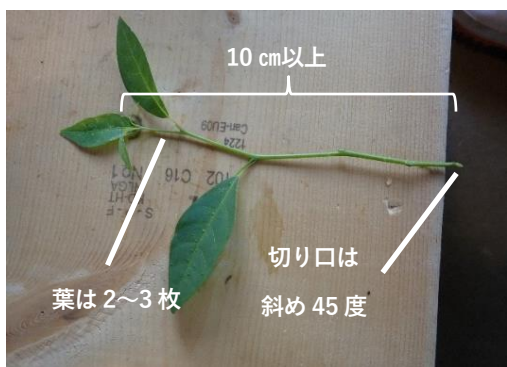


図2. 調整したクロモジ挿し穂

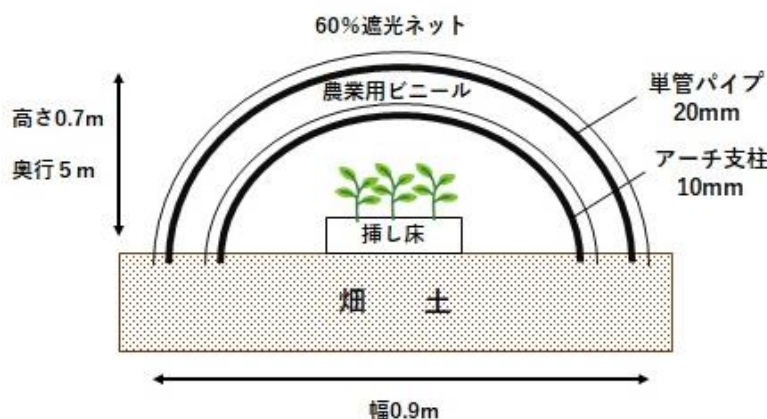


図4. トンネルの断面図
 ※夏場は高温対策のため、南側にすだれを設置



図3. 設置したトンネルの様子

III その他

1 執筆者

大高千怜

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元~令和5年度
- (2) 研究課題名 広葉樹の増殖に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 令和元年度福島県林業研究センター業務報告
- (2) 令和2年度福島県林業研究センター業務報告